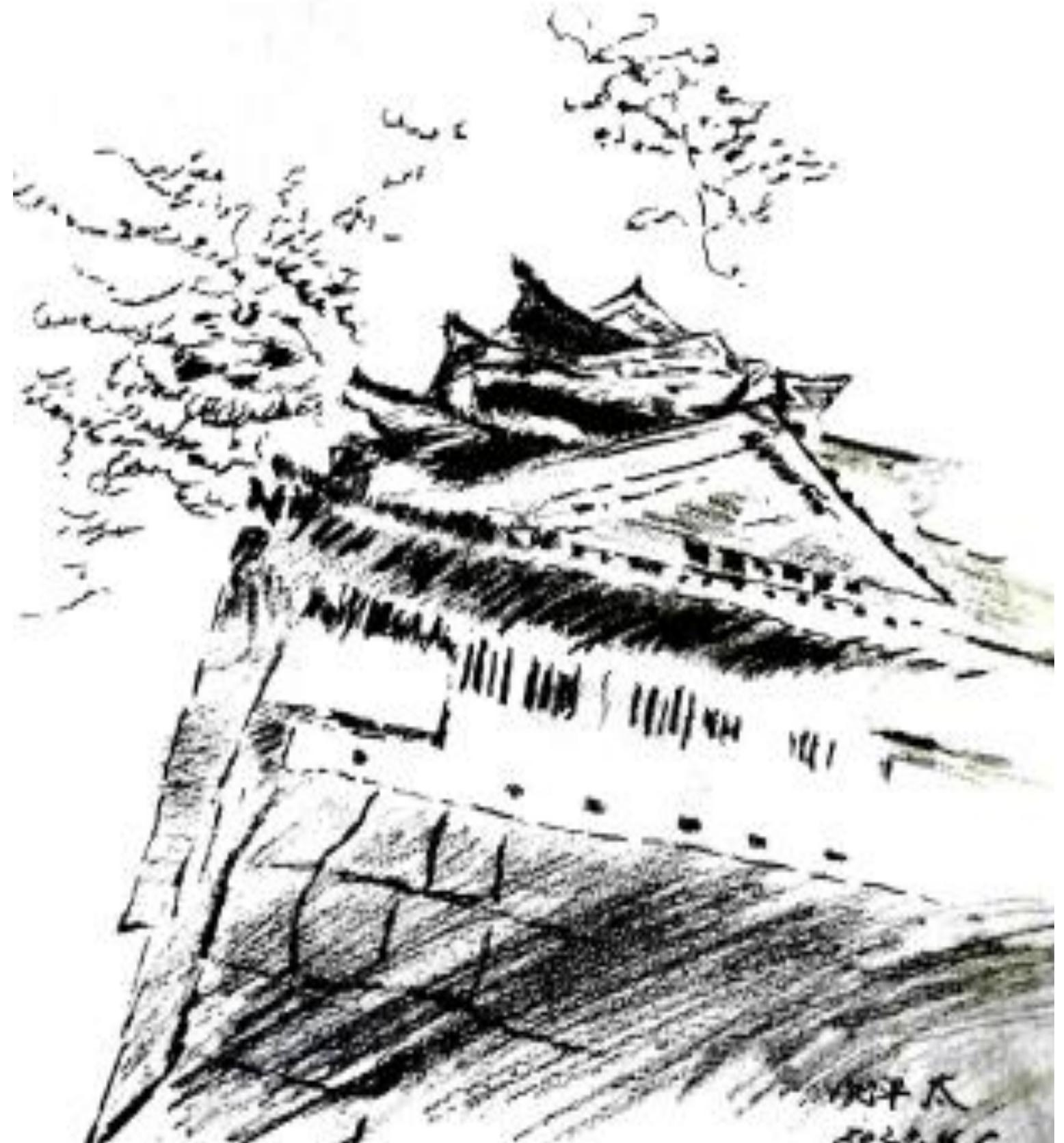


閣守天柳川

2025年6月号



第25回例会 2025年5月15日(木) 投句締切分

お題 「路地裏」

山野寿之 選

ドクダミの白がスポット当てる路地

濡れ落ち葉路地裏までも付いてくる

路地裏に移動スパー囲む主婦

路地裏に誰も知らない秘密基地

路地裏に輝いていた紙芝居

路地育ち心落ち着く狭き場所

路地裏に昭和の母の影法師

カランコロン路地ひけらかす石畳

赤提灯路地裏こそが指定席

路地裏で神と縄跳びする少女

路地裏のカラス知ってる定休日

路地裏で騒ぐ悪ガキ怒鳴る親

路地裏に三代つづくコロッケ屋

路地裏のビストロ忘れられぬ味

路地裏の昭和はボクの始発駅

路地裏に漂う昭和人の情

(五客)

佳5 路地裏に昭和レトロな縄のれん

佳4 インバウンド路地裏まで人溢れ

秋田あかり

久世高鷲

蔵内歳重

林ともこ

蔵内歳重

美代

平川柳

小林満寿夫

佐野正邦

平川柳

松谷由夏

松島きよみ

三枝なな

青空

浜知子

秋田あかり

井澤壽峰

勘兵衛

(三才)

佳3 人情と昭和の匂い残る路地

佳2 打ち水し床机を囲むへボ将棋

佳1 春の宵猫が囁く路地の裏

松島きよみ

加山勝久

久世高鷲

人 路地裏のお地藏さんは聞き上手

地 拍子木の路地裏響く紙芝居

天 路地裏でケンケンパーの藁草履

軸 路地裏の貸し借り情の味噌醤油

真鍋心平太

東尾由子

堀内きみ子

山野寿之

(選評)

人の句

路地裏には小さな祠に小さなお地藏さんがおられました。賽銭もあげずにお願いをしました。お地藏さんも心得たもので笑顔でよっしゃよっしゃと言つて、聞いてくれました。

地の句

自転車の荷台に紙芝居や駄菓子が入った引き出しを積んで、紙芝居のおっちゃんがやってきました。スピーカもなく拍子木を打ち鳴らすと、待つてましたとばかり、路地裏から子ども達がぞろぞろ集まってきました。

昭和の風景ですね。

天の句

蠟石で線を引き「ケンケンパー」を昭和の女の子が主に遊んでいました。足元は靴でなく下駄でなく藁草履でした。

昭和は貧しい時代でしたが、子ども達の遊びに工夫がありました。良き時代でした。

お題 「モデル」

土井直子 選

古写真見れば私もモデル級

八頭身顔が無ければ即モデル

展示会カツラのモデル盛り上がる

スケッチも美人モデルと大違い

モデルチェンジ洗礼受ける厳しい目

モデルハウス買う気もなく暇潰し

脱ぐ度にグラビアモデル出る人気

プラモデルいつか乗りたい赤ポルシェ

ワンクリックでナイスバディになりました

人生はモデル通りに行かぬもの

ありのままでもいいプラスサイズモデル

(五客)

佳5 モデル歩きちょっと試してから捻挫

佳4 新型コロナモデルチェンジで強くなる

佳3 姉颯爽と後ろ姿はモデル並み

佐野正邦

井澤壽峰

東尾由子

東尾由子

三枝なな

林ともこ

久世高鷲

美代

浜知子

勘兵衛

蔵内歳重

林ともこ

蔵内歳重

松島きよみ

佳2 膝手術モデルチェンジで闊歩する

佳1 モデルガン殺さぬ戦争なら平和

(三才)

人 生きかたのモデル時代で変えています

地 実弾を欲しがっているモデルガン

天 Aのモデルに愛はありますか

軸 わたくしのモデルはわたしたただひとり

松谷由夏

平川柳

信子

春田敏晴

平川柳

直子

(選評)

人の句

多様性が叫ばれるようになり、ロールモデル自体もなくなりつつあります。つまりこれからは「自分の人生は自分でプロデュースする」

そういう力がないと生き残っていけない。

ある意味厳しい時代なのかもしれません。

地の句

欲望が剥き出しになると、子供の喧嘩が大人の戦争になります。

他者を思いやる想像力さえあれば解決するのに、答えは古代からわかっているのに、実行できないのが人類なのでしょうか？

天の句

冷淡な人間より、Aのほうが優しく寄り添ってくれるような

時代がそこまで来ているのかもしれない。

それはいいことなのか、そうでないかはわかりませんが、いつの時代にも「愛」に勝るものはないと信じてたいです。

お題 「雑詠」

真鍋心平太 選

鎮魂の思いでローソクが揺れる

林ともこ

気休めのサブリ増やして四股を踏む

松島きよみ

母の日に供えて偲ぶ初苺

堀内きみ子

メリハリの言葉が消えてゆく老後

平川柳

病葉の意に介せず鰻井

小林満寿夫

イスラエル鬼をあやつるマリオネット

岩原一角

麻酔覚め涙一筋生きている

美代

ちつぽけな愛で世界を満たしたい

直子

我が脳にSDGs入れられぬ

蔵内歳重

赤帽子かぶり待ちますタナボタを

加山勝久

喜寿の身はサンロクゴ日ゴールデン

佐野正邦

薫風も未来も詰めたランドセル

山野寿之

(五客)

佳5 スーパーの貝チャイナ語話すパクパクと

美代

佳4 履歴書の折り目に誓う二度の職

浜知子

佳3 天に神地に神人にまだ遙か

井澤壽峰

佳2 間違っつてはいない答えをくれる友

信子

佳1 にんげんに明日があるから歩く足

平川柳

(三才)

人 母の海もつと溺れてみたかった

久世高鷲

地 心残りあつていつでもあのベンチ

秋田あかり

天 老眼は進むが第三の目も開き

波部珀兎

軸 ひとり咳ふたり咳眠れますように

真鍋心平太

(選評)

人の句

「海よ、僕らの使う文字では、お前の中に母がいる。そして母よ、仏蘭西人の言葉では、あなたの中に海がある」

三好達治の郷愁という詩の一節。

溺れてみたいのは「郷愁」ということか。

地の句

誰しも心残りがあつてそれを思い出すベンチを持っている。

そこだけ陽が射しているようで

座るとホツとするベンチ。

天の句

老いてから見えて来るのは「死」であり、その覚悟が出来たと
きから真の人生というものが始まる。

この覚悟のない人は真の人生を知らずに人生を終える。

誠に気の毒というしかない。

お題 「きっかけ」

互選

1点

きっかけと手当たり次第出会い系
告白を受けてようやく添い遂げる
義理チヨコが本命チヨコとなり挙式

勘兵衛
久世高鷲
井澤壽峰

始まりは転倒母と同じ老い

秋田あかり

犯罪は点と線から時刻表

真鍋心平太

誰がした僕をこんなに酒好きに

佐野正邦

宗教が絡むと戦始まりぬ

浜知子

円高のきっかけ作るトランプ氏

岩原一角

肩チヨンと突いてからのダイヤ婚

山野寿之

きっかけはお互い傘なく雨宿り

加山勝久

受け取った街頭ティッシュが運の尽き

松谷由夏

シヨッピング衝動買いの値下げ札

堀内きみ子

日の丸弁当梅ぼし病みつきに

小林満寿夫

ぬるぬるのうなぎ触った好奇心

武智三成

きっかけはここだけの話という言葉

浜脇蓬生

テレビが誘う花の見頃の観光地

松谷由夏

励ましの言葉何よりの起爆剤

波部珀兔

4点

相席で意気投合し無二の友
SLの軋みに惚れて撮り鉄に

松島きよみ
小林満寿夫

通りがかりミューミュー鳴いていた子猫

信子

きっかけは忘れましたがいい恋だ

直子

傘がないふり持っているのに

真鍋心平太

きっかけの糸を手繰ればそこに君

平川柳

きっかけはあの日手にしたラブレター

美代

乗り遅れ歩いてみたら習慣に

浜脇蓬生

きっかけは自由になれたそれだけだ

直子

大戦の火蓋を切った真珠湾

井澤壽峰

俄雨一本の傘からドラマ

山野寿之

きっかけが欲しい昨日の痴話喧嘩

林ともこ

じいちゃんの膝で覚えた酒の味

松島きよみ

一本の薔薇が大きな愛になり

春田敏晴

今やろっ誰か背中を押してくれ

佐野正邦

きっかけはどうあれ今は僕の妻

林ともこ

発端はひよいと送ってきた林檎

秋田あかり

雨降りに橋渡しする傘ひとつ

久世高鷲

2点

3点

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

お題 「事件」 短文

互選

1点

大変たいへん煮込みが焦げた
犯人へ巻き添えは迷惑
悲惨な事件孫を案じる
事件現場に愛が落ちた

浜脇蓬生

信子

青空

直子

堀内きみ子

浜脇蓬生

真鍋心平太

美代

加山勝久

松谷由夏

波部珀兎

小林満寿夫

久世高鷲

浜知子

松谷由夏

武智三成

直子

蔵内歳重

東尾由子

山野寿之

2点

近所の事件を報道で知る
杖つきながら琵琶湖一周
野次馬群れる事件の現場
コメの値段が百円下がり
悲惨な事件心が裂ける
清張で知った事件の真相
花も首折るひき逃げ現場
迷宮入りで事件も風化

3点

熱いキツスもボクには事件
耳を疑う事件が起きる
青大将と五月争う
さりげなく咲く一輪の百合
隔世遺伝トップ走る子
ドラマの中は事件解決
赤木ファイルを無駄死にさせぬ

逆走へああ惜しい命よ

二十年振り図書館デビュー

転び出血あわや骨折

サスペンス好き事件は佳境

事件記者でもヒマが最高

竹の花咲く父亡き庭に

事件の裏に女偏あり

左の足で右足踏んだ

5点 詐欺がにおうな受話器の向こう

蓋を開けたら米がいつぱい

最近友がブランドまみれ

6点 事件の予感お茶碗割れる

舗装めくれば空洞だらけ

晴らす冤罪捏造の闇

11点 薬指からリングが消えた

信子

秋田あかり

青空

林ともこ

加山勝久

秋田あかり

平川柳

春田敏晴

浜知子

春田敏晴

松島きよみ

堀内きみ子

蔵内歳重

山野寿之

真鍋心平太

今月の投句者(27名 敬称略)

井澤壽峰 加山勝久 蔵内歳重

山野寿之 岩原一角 信子

平川柳 三枝なな 林ともこ

秋田あかり 久世高鷲 直子

勘兵衛 波部珀兎 浜脇蓬生

佐野正邦 東尾由子 浜知子

春田敏晴 松島きよみ

武智三成 小林満寿夫

美代 真鍋心平太

松谷由夏 青空

堀内きみ子

皆様ご参加、ご協力ありがとうございました。

川柳天守閣 連載評論「現代川柳の詩学」を考える ⑩
明治の「前句」の本格的評論―「前句源流」の史的研究
十八世川柳宗家 関成庵川柳 平 川柳(東京川柳会主宰)
明治時代に初世 柄井川柳の選句した「古川柳」
の復興運動の契機となった評論が漢学者の中根
香亭(一八三九・一九一三)が記した「前句源流」
です。これは一九〇二(明治三十五)年三月、金
港堂から創刊された『文藝界』の第一号から同年
十一月の第十号まで連載されました。

この「前句源流」は「川柳」を歴史的に考察し
た最初の本格的な評論であり、「川柳」の〈近代
化〉を形成させる上で重要な理論書となったもの
です。

この「前句源流」は詳細な例証をあげ、「前句」
の史的研究を行っています。

「前句源流」では「雑俳」の「前句附」を祖と
し、「川柳風」の「前句」をその嫡男と呼んでい
ます。そして「前句」を省いて「独立の句」を首
ちやくなん

唱した「前句附」の点者・柄井川柳の「川柳」
は世に広まり、やがて「川柳家」の「専有」のよ
うになりましたが、柄井川柳が老いて没した後
は、柄井家の二世川柳・三世川柳が川柳号を嗣号
しました。しかし四世川柳を嗣号した人見周助は
「川柳風」の「前句」を「俳風狂句」と命名し、
自ら「俳風狂句元祖」と自称しました。続く五世
川柳は「俳風」を「柳風」と改め、「柳風狂句」
と名づけました。こうして柄井家の「川柳」は四
世川柳と五世川柳によって「狂句」に家を譲るこ
とになります。

『文藝界』(第一巻第五号)の「前句源流」に
は「柳祖」である一世の柄井川柳から六世の水谷
川柳に至るまでの川柳宗家の略系が紹介されて
います。

この第五号の「前句源流」で筆者の中根香亭は
「川柳」は川柳宗家の「所有物」ではないので、
「有力な判者」が出現すれば、「別調」の「判者」
が出てよいと述べています。

この「前句源流」の発表された翌年に井上劍花坊の「新川柳」が誕生したことを考えると中根香亭が記した「前句源流」は「新川柳」を誕生させる契機となった重要な理論書だといえます。

「前句源流」で述べられている「有力の判者」が出て、「佳作」を取り、「拙作」を捨てるような川柳宗家以外の「別調」の「判者」が出て来てもよいという発言を受けて最初に登場したのが「新川柳」の指導者となる川柳作家の井上劍花坊です。劍花坊は一九〇三（明治三十六）年七月三日、新聞「日本」の「新題柳樽」の選を担当し、一九〇五（明治三十八）年七月には柳樽寺川柳会を結成し、同年十一月三日には機関誌『川柳』（第一巻第一号）を創刊します。その創刊号には劍花坊の「吾人の抱負」が掲載されています。劍花坊は「平民文学の一産物たる前句附、万句合の中より、我が川柳点は誕生せり。」と述べ、「川柳」は「十七」音の「短詩」であり、「我が国における滑稽趣味を有する文学中、最も短式にし

て、最も大なるもの」であり、それは「人情の機微をうがち」、「風俗に詩趣を探り」、「道義を諷刺に寓」するものであると語っています。そして柳樽寺川柳会の「吾人は川柳の名」を用い、「古川柳」の「形式」や「内容」の長所を学び、「明治文壇」に「新式短詩」を打ち立て「川柳」を「大いに笑ふ文学」であると定義します。

劍花坊は明治時代の機関誌『川柳』時代を「新川柳の革新運動」の第一期と規定しています。

この時期の劍花坊は「川柳」を「大いに笑ふ文学」と定義し、「明治文壇」に「新式短詩」を打ち立てることを川柳の革新運動の目的としています。

劍花坊が川柳革新運動をする上で参考にしたのが、中根香亭の「前句源流」であり、正岡子規の「川柳観」を示した評論であるといえます。

劍花坊が新聞「日本」の「新題柳樽」の選者になった翌（明治三十七）年には日露戦争が勃発します。

（続く）

「復活」

真鍋心平太

開催されている大阪の万博イタリヤ館でミケランジェロの「キリストの復活」が展示され話題となっている。

私はあの広い会場を歩きまわれないのもうこれを見ることは出来ないが、「キリストの復活」と言われるものは随分前に見たと思う。それはメル・ギブソン監督の「パッション」という映画のこと。キリストが処刑され復活するまでの12時間を描いた映画であるが、その拷問シーンの凄まじさに試写を観たキリスト教徒の一人がショック死し、ローマ法王（ヨハネパウロ二世）が「It is as it was（全て真実）」とコメントした。

この映画を観たとき、「人間とは我々とは何者なのだろう少なくとも善悪や是非などで語れるような生易しい存在ではない」と思い知らされ、キリストが背負っていった凄まじい物の影を見た驚きに心震える思いがした。

キリストが処刑されたときサタンは、イエスを葬ることが出来たと思い、神に勝ったと思ったがその瞬間、「全ての罪と人を張り付けられた十字架の上で許す」ことによりイエス・キリストは再び人々の心に蘇る。これが「復活」である。

金子光晴が「西ひがし」という小説の中で書いている。

「マレーで売春婦の娘と出会ったとき

その娘がふいに日本語で『コーベには、僕のおじさん、いた僕、小学校三年まで、そこにいた。子供たち、いじわるいたけれど、それでもコーベ、たのしかった。男の子、女の子いたけれど、みんな、僕をおもいだしてるよ。きつと』

人間をこんなにいじらしく作った神に対しての憎しみがこころを苦しい油搾木（しめぎ）にかけて指先がふるえた。その手が彼女の肩に触れようしたとき、影芝居の人形を裏返すように彼女は消えてしまった」と。

キリスト教のことは良く分からないが、復活とは、例えばこういう出会いがあったときに感じる救い、絶望の中に希望の灯かりを見出したような思いがすることではないだろうか。

今月は久々に巻末の絵にこの「キリストの復活」像を描いてみました。

第26回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「生活」 井澤壽峰 選
「広い」 濱脇蓬生 選
「思想」 互 選
「雑詠」 真鍋心平太 選
「文学」(短句) 互 選

(投句 各 2 句)

投句料 3 回につき 1000 円

(請求書メールが届いたらお支払い下さい。)

投句開始 2025年6月9日(月) から

投句締切 2025年6月15日(日) まで

互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。

6月16日(月)～6月19日(木)

披講発表 6月20日(金) から随時閲覧可能になります。

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は
下記 URL から可能です。

<https://tensyukaku.com/>

投句、互選投票は会員登録が必要です。

会員登録は下記 URL より

https://tensyukaku.com/id_make.php

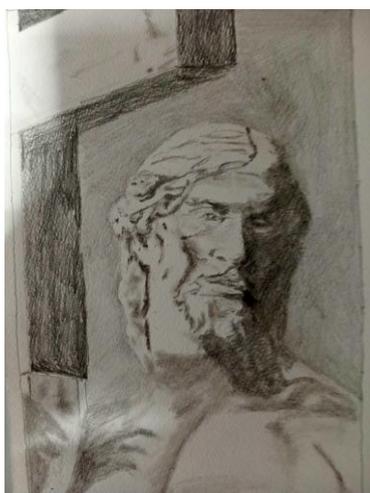
スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録



鉛筆画

クリックで拡大

二〇二五年五月二五日発行

ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)

(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

Tel・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446